

1 健康福祉

～すべての市民が健康で安心して生活を送ることのできる環境が整っているまち

<基本計画の目標>

関係機関・団体・ボランティアと地域住民との協働により、安心して暮らすことができる豊かな地域社会づくりに努めます。

より身近な地域で、保健・医療・福祉が連携したサービス提供体制を充実するとともに、利用しやすい相談・情報収集提供機能の向上をめざします。

高齢者、障害者やひとり親家庭などが、地域で安心して暮らせるために、生活全般において多様な支援体制を整備し、自己選択・自己決定が尊重され、一人ひとりの権利が擁護される仕組みづくりを行うとともに、社会参加が促進されるよう市民・事業者・NPO等の理解を図っていきます。

少子高齢社会を明るく、活力あるものとしていくためには、市民一人ひとりが豊かな生涯を送れるように心身ともに健康な状態を保持していくことが大切です。今後、市民が主体的に健康づくりに取り組めるような環境の整備を進めていきます。

市民の急病などに対応するため、救急医療体制の一層の充実をめざします。

住宅施策と福祉施策の連携を進め、高齢者、障害者やひとり親家庭などが、安心して住むことのできる住宅施策を行うとともに、すべての市民が安心して出かけることができるよう、都市環境のバリアフリー化やユニバーサルデザインを取り入れたまちづくりの推進をめざします。

高齢者や障害者等のさまざまなニーズに対応した在宅サービスと施設サービスの一層の連携と充実を図り、保健・福祉施設の整備・拡充をめざします。

地域全体による子育て支援を進め、次代を担う子どもが健やかに生まれ育つ環境を整備します。

子どもたちが健やかでのびのびと成長できるよう、すべての子育て家庭への支援の充実をめざします。

<目標指標>

目標指標	目標指標の定義	当初値	H18	H19	H20	H21	H22年度 目標値	H27年度 目標値
市民1人当たりの 平均医療費(－)	国民健康保険加入者1人が1年 間にかかった医療費の平均金額	217,856 円	227,000 円	237,000 円	247,000 円	257,000 円		
		217,856 円	242,442 円	255,226 円	257,059 円	223,508 円	245,000 円	277,000 円
介護認定の進行を 阻止できた人数 (＋)	介護予防給付を受けたことにより、 介護認定の進行を阻止できた 人数の累積合計	7,349 人	7,349 人	7,660 人	7,894 人	7,896 人		
		7,349 人	7,059 人	7,349 人	7,487 人	7,614 人	7,928 人	9,048 人
保育園待機者数 (－)	公立園・民間園に入りたくても入 れない対象児の数	33 人	41 人	32 人	34 人	44 人	0 人	0 人
健康診断受診率 (＋)	ここ1年以内に健康診断を受けた ことがある市民の割合	76 %	72.7 %	78 %	77.2 %	76.1 %	77 %	80 %
高齢者福祉サービ スの充実度(＋)	高齢者福祉サービスが充実して いると感じる市民の割合	39.6 %	42.1 %	34.4 %	43.6 %	42.9 %	42 %	44 %
子育て支援策の充 実度(＋)	子育て支援策が充実していると 感じる市民の割合	31 %	33.2 %	33.3 %	33.9 %	33.1 %	33 %	36 %
市民満足度	サブタイトルにあるまちの実現状 況について、市民が実感している 割合	35.2 %	29.7 %	31 %	38.4 %	36.1 %	45 %	50 %

＜これまでの取組の評価～進捗と課題＞

評価：◎80%以上の成果、○50%以上の成果、△30%以上の成果、×30%以下の成果

・健康福祉部

＜昨年度からの課題＞

- * 成年後見制度の充実や、市民後見人の養成、後見人と関係者などとのネットワーク化を進める必要がある。
- * 第4期高齢者保健福祉計画の中で、特別養護老人ホームがあと117床、老人保健施設があと180床の整備が求められている。
- * 安心して産み育てる環境づくりが必要である。
- * 障害者福祉計画の推進状況を把握・点検し、進行管理が必要である。
- * 小児医療費助成制度は、医療費の自己負担部分を助成することにより、子育て世帯を経済面で支援する施策として、推進が求められている。

＜進捗＞

- * 市民後見人の養成（2ヵ年）の取組みを開始し、予定していた前期研修を終了した。
- * 特別養護老人ホームにおいては、神奈川県との間で80床の協議が整い、さらに2ヶ所の老人保健施設の相談に対応している。
- * 医師会立産科診療所（ティアラかまくら）の運営を支援するとともに、円滑な運営と透明性を確保するため、外部委員による運営協議会を設置した。
- * 安全な出産と母体・胎児の健康を確保するために実施している、妊産婦健康診査受診費用の助成回数を7回から15回に拡充した。
- * 障害者福祉計画推進会議及び障害者福祉計画推進委員会をそれぞれ2回開催し、障害者福祉計画の推進状況に関する進行管理を行なった。
- * 小児医療費助成制度は、対象年齢を小学4～6年生（所得制限あり）まで拡大した。

＜課題＞

- * 市民後見人を養成した後の活動の場の提供が必要である。また、関係団体とのネットワーク化に向けて、成年後見制度連絡会を立ち上げる必要がある。
- * 具体的に、特別養護ホームは23年度中の開設を目指し支援する。老人保健施設は22年度中に100床の開設を支援するとともに、さらに1ヶ所についての協議を進め支援していく。
- * 安心して産み育てる環境をより一層整えることが必要である。産科診療所（ティアラかまくら）の運営向上のためにも、同施設の増床等が必要である。
- * 次回の障害者福祉計画の改訂に向けて、障害者本人をはじめとして市民の方の意見を把握し、その声を反映させる必要がある。
- * 小児医療費助成制度は、国や県の、施策や動向を見据えながら、長期的な展望に基づく制度について検討していく。

担当部の評価



・こどもみらい部

＜昨年度からの課題＞

「鎌倉市次世代育成きらきらプラン前期計画」の着実な推進を図るとともに、平成20年度に実施したニーズ調査を基に、平成22年度から26年度までを計画期間とする「鎌倉市次世代育成きらきらプラン後期計画(以下、後期計画という)」を策定し、公表します。

＜進捗＞

ニーズ調査結果や市民・団体別懇談会での意見、子どもとの意見交換での意見を参考にするとともに、公募による市民・地域の関係団体・学識経験者・行政関係機関等の関係者で構成する「鎌倉市次世代育成支援対策協議会(以下、協議会という)」での4回の協議を経て後期計画の素案を策定しました。さらに、この素案に対するパブリックコメントを行い、協議会でパブリックコメントで出された意見の後期計画への反映方法を協議し、後期計画を策定し、公表しました。

＜課題＞

後期計画では平成22年度からの5年間に重点的に取組むべき「保育環境の充実」「市民ニーズにあった居場所の整備」「安全・安心を感じられる環境づくりの推進」を重点取組みとして設定しました。限りのある予算の中で、重点取組みを着実に推進するため、子育て支援に今ある資源（人・もの・金・情報）を最大限有効活用して、子育て支援策が充実していると感じる市民の割合を高めしていくことが課題です。

担当部の評価



・議会事務局

<昨年度からの課題>

議会の会議運営の原則の一つに「公開の原則」があり、鎌倉市議会では平成19年9月から本会議のインターネット中継を開始し、更に平成22年9月からは委員会等のインターネット中継も開始予定であります。

また昨年度は、傍聴者の更なる利便を図るために障害のある方にも自由に本会議を傍聴してもらうため、階段昇降における課題の克服と本会議場傍聴席のバリアフリー化について、関係課と協議を進め、具体的改善、改修を検討しました。

<進捗>

平成21年度予算措置され、10月末に車椅子用階段昇降機を設置し、11月末に本会議場傍聴席のバリアフリー化の改修工事を実施しました。

「かまくら議会だより」に階段昇降機の設置の情報を2回載せ、市民に広くPRし、12月議会以降、3名の利用者がありました。

<課題>

高齢者や障害者が地域で安心して暮らせるため、「議会の公開」について環境や支援体制を整備し、一人ひとりの権利が擁護されるようハード面での対策は講じたが、今後、継続してPRする周知方法や、車椅子用階段昇降機の運転講習の定期的な実施とメンテナンスといった部分が課題である。

担当部の評価



<今後の展開(取組方針)>

・健康福祉部

- ・ 特別養護老人ホーム及び老人保健施設の整備を図ります。
- ・ 成年後見制度の充実、市民後見人の養成、後見人と相談機関及び関係者のネットワーク化などを進めます。
- ・ 母子保健事業の推進を図るための研究会を組織し、事業の現状整理とティアラかまくらをはじめ、庁内各課や関係機関との協力体制のあり方を検討します。

・こどもみらい部

- ・ 「子どもが健やかに育つまち、子育ての喜びが実感できるまち、子育て支援を通してともに育つまち・鎌倉」の実現を目指し、「鎌倉市次世代育成きらきらプラン後期計画(以下、後期計画という)」の施策の着実な推進を努めます。
- ・ 特に後期計画で重点取組みとして位置づけた「保育環境の充実」「市民ニーズにあった居場所の整備」「安全・安心を感じられる環境づくりの推進」に関わる施策の着実な推進に努めます。
- ・ 国が指定する特定事業の目標について、後期計画期間中の達成に努めます。

・議会事務局

- ・ 職員に対する階段昇降機の運転講習を実施し、運転許可者を確保するとともに、定期的に運転練習を重ねる。
- ・ 本会議場傍聴席のバリアフリー化によって、広く市民の方が傍聴可能となったことをどう情報提供するか検討する。

鎌倉市民評価委員会の評価

～評価委員は、この分野の取組について次のように評価しています。



評価できるところ

- ・高齢者、障害者の権利を擁護するため、成年後見制度の普及・啓発に努めることは良い。
- ・産院不足が叫ばれている昨今、産科診療所への支援や、小児医療費の対象年齢の引き上げ、障害者ご老人への支援の拡大など市民のニーズに対応するような施策も評価できる。新たに出来た産院は地元に着し、評判も良い。
- ・子ども手当、小児医療補助、幼稚園等就園奨励費補助金等、子育て家庭への経済的支援を充実させている。
- ・発達支援の為、市内の公立保育園、民間保育園、私立幼稚園からの要請に応え、言語聴覚士、心理士等の専門職を巡回派遣し、職員や保護者への助言を行っているのは評価できる。



課題・提言

- ・子育て支援の充実度が33%と目標値ではあるが、鎌倉市は充実しているという感想を持っている。しかし、充実度が低いのはなぜであろう。子育て支援の取り組みの広報が不十分ということはないだろうか。また、非常に頑張って施策を進行させているにも関わらず市民満足度が低い点も理解いただく方法の改善が必要と考える。
- ・保育園の待機児童数を目標指標にするのは疑問がある。保育所等は需要創造型の施設であり、待機児童数はゼロにはならない。利用者は立地のよい保育園を希望するから待機児童が増える。辺鄙なところは定員に達していないはず。
- ・高齢者福祉は充実しているかの間に、分からないと答えた人が50%、子育て支援では46%であり、59質問の中でこの2つの分野があまり市民に知られていない。広報やHPでもっと市民に分かり易く知らせてほしい。
- ・高齢者福祉サービスの充実度もここ数年は横ばいである。どの部分の福祉サービスが必要とされているのか？調査する必要がある。